

個展・里帰り展に伺いました♪

6月25日、福岡三越での、青木昌勝さまの個展に伺いました。青木さまは佐賀県伊万里市大川内山で青磁を中心に作陶しておられ、粘土の購入でいつも当社までお越しいただいています。大川内山は鍋島藩の御用窯が置かれ、將軍家や諸大名への献上品が焼かれていたところです。

4月の第56回西部伝統工芸展では最高賞の朝日新聞社大賞を受賞され、すごく良い時期での個展開催でした。受賞作品と同様のマット調で淡く青白い色彩の作品を中心に展示されていました。

これまで工房へお邪魔したことはなかったので、伝統的な形状から現代的なものまで、会場でたくさんの作品を前に、楽しくお話しさせていただきました。



青木さまと



青木さま受賞作

7月17日、大分県中津市耶馬溪町での藤野貴則さまの里帰り展に伺いました。藤野さまは長野県で作陶されていますが、ご出身が耶馬溪町で今回2回目の里帰り展とのことでした。



藤野さまと

伺った日は釉描の実演もされており、たくさんのお客さまで賑わっていました。気の遠くなるような作業を経て生み出される作品。大きいものから小物までどれも繊細で見応えがあります。

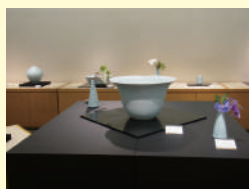
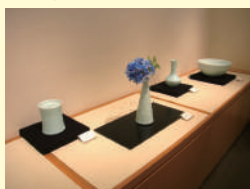
毎度の事ながら、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいます。機会を見つけて長野の方にもお邪魔したいです。

青木さま、藤野さま、若いお二人のご活躍を期待しております。

みなさま、今後も個展の案内などありましたら是非お送りください! 刈野直幸



青木さまの作品を一部ご紹介



藤野さまの作品を一部ご紹介



工場見学にお見え
になりました!!

8月10日、武蔵野美術大学の西川先生ご夫妻と大学院の学生さんがいらつしやいました。アポなし突然(笑)。

時間の確約が難しいスケジュールだったため、今回の訪問は諦めていたそうです。ところが有田へ向かう途中、たまたま当社の前を通りかかり、看板を見て立ち寄りたとのこと。ちょうど私も会社でいたのでグッドタイミングでした。

短い時間でしたが、われわれの粘土作りを見ていただきました。少しでもお役に立てていれば幸いです。

工場見学ウエルカムです。近くにお越しの際はお寄りください。案内と説明は私のみとなります。ご了承ください。



武蔵野美術大学
西川先生と院生さんたち

MARI の
ココロ(は
つなまり

最強のカード

サン・マリデザイン
オフィスの友永です！

梅雨のある日、雨
のため外で遊べない
3歳の娘は、狭い家の

中でドンドンバタバタ…ギャーギャーキーキー…。
見かねて「雨の日 子ども 遊ぶ 福岡」でネット検
索すると出てきました、マリワールド 海の中道。
福岡では有名な水族館。これだっ！と早速GO。すると、
みなさん考えていることは一緒のようで ^^; 小さな
子ども連れファミリーがいっぱい。

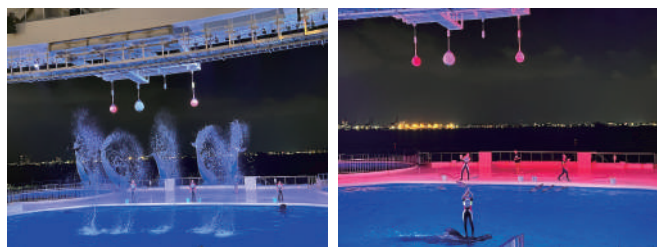
まずは駐車場に車を停めるのも大変！ 当然、施設
に近い場所は空気がなく、遙か遠くの駐車場から雨の
降るなか歩き、やっとの思いで入り口に着くと、そこ
には入場券を購入する人の長蛇の列（泣）。

ただ、知る人は知っている。
Web で事前にチケットが購入で
き、並ばず入場できることを。
さらには、1年間何度でも使える
年間パスポートなるものがあり、通常、大人 2,500 円、幼児
700 円の入場料に対し、年間パ
スは大人 5,200 円、幼児 1,600
円+館内のショップでも割引特

典がついている☆つまり1年間で3回行けば元が取れ
るということ。雨の日はもちろん、夏の暑いときも最
高ではないかと、私たちは列を外れ、年間パスポート
をその場でネット購入しました。

とにかく、人が多いので人酔いして気分が悪くなり
そうなのだけど、年間パスポートを持っているおかげ
で、心に余裕があり「今日はイルカのショーだけみて
帰ろう」だとか「今日はゆっくり1階だけみて帰ろう
とか」すごく贅沢な時間を過ごせるんです♪

なかなか遠方だと難しいけれど、何度も水族館を楽
しみたい人には最強のカードです。我が家もこれから
年間パスポートという最強のカードを持って雨の日で
も真夏日でも真冬日でも楽しめそうです（笑）。友永 真麗



▲夏の期間は夜の水族館も開催、すごく盛りあがります！



有限会社 洵野陶磁器原料

〒849-1426 佐賀県壱野市塩田町大字五町田乙 287-1

TEL 0954-66-4207 / FAX 0954-66-3747 / E-mail info@fromform.jp

このニュースレターは、これまでご注文いただいた方、サンプルをお送りしました方、名刺交換をさせていただいた方など、ご縁がありましたみなさまにお送りしております。
必要のない方は、たいへんお手数ですがその旨を上記までご連絡ください。

第30話

会長さんの 昔話



今回は、同業他社さん
のお話です。
昭和48年、塩田陶土協
業組合が設立されます。
娘が生まれた年なのでよ
く覚えています。それま
で個別に営業をされてい
た10軒の粘土屋さん共
同出資をして、新しい工
場の用地を取得、建物を
建設して生産を始めまし
た。

協業組合のロゴマーク
は塩田町出身の森正洋さ
んのデザインでした。10
軒集まって出来たので塩
田陶土さんの事を十社と
呼ぶ人もいました。
設立者はみなさん旧塩
田町の方々、栄岩春一さ
ん・小川澄さん・洵野秋
夫さん・洵野正敏さん・
森田猪一郎さん・坂本宣
行さん・田中泰さん・山
口俊徳さん・朝永富美雄
さん・山田豊さんの10人
です。
わが社がある橋山地区
からは次の3名が参加さ
れました。栄岩さんと洵野

正敏さんは父多八と従兄
弟、洵野秋夫さんは二従
弟でした。3人ともうち
とは親戚になります。話
とは逸れますが、現在、洵
野姓の陶土業者が当社の
他に2軒あり、2軒とも
血縁関係はなく、赤の他
人です。
塩田陶土に参加された
方たちはスタンパー数12
く24本、従事者数4く6
名の小規模な事業所ばか
りでしたが、新しい工場
はスタンパー数192
本、従事者数50名超、地
元ではとてもとても大き
な規模の業者になりました

た。最盛期は月産500
く600トンだったと
聞いています。
当時、同業者の組合で
ある肥前陶土工業協同組
合の集計では、塩田陶土
さんも含めた出荷量が月
におよそ2500トン。
一方、わが社は現在と同
じスタンパー数62本に増
設したばかり。生産量は
月に1000トンほどだっ
たと思います。
高度経済成長期の上り
調子の中、合理化して効
率よく量産する手段とし
て新工場への集約を図ら
れたのでしょうか。こうし



塩田陶土 協業組合

森正洋さん
デザインの
ロゴマーク

洵野義則

て出来た約2700坪の
敷地内に建つ1500坪
ほどの当時の陶土業界とし
ては巨大な工場。同業者の
1/5く1/4を占める生産量。
華々しい船出かと思いき
や、塩田陶土さんのことを
快く思わない人たちがいま
もいます。
彼らも、そ
して、彼
らは、こ
（つづく）

やっと少しずつ秋を感じられるようになり
ました♪皆さんはどんな秋を過ごされますか？

洵野 陶磁器



<https://fromform.jp/>